# 第６０回小金井市市民参加推進会議

日　　時　　令和３年４月８日（木）午後６時００分～午後７時２８分
場　　所　　第二庁舎　８階８０１会議室
出席委員　　１１人
　委員長　　松　田　恵　示　委員
　副委員長　　金　尾　悠　香　委員
　委　員　　岡　田　一　美　委員　　鴨　下　明　子　委員
　　橋　田　譲　志　委員　　竹　田　祐美子　委員
　　中　村　彰　宏　委員　　森　田　眞　希　委員
　　南　　貴　之　委員　　天　野　建　司　委員
　　加　藤　明　彦　委員
欠席委員　　１人
　　村　本　　萌　委員

---

事務局職員
企画政策課長　　梅　原　啓太郎
企画政策課係長　　東　條　俊　介
企画政策課主任　　野　村　啓　介
企画政策課主事　　金　信　沙　樹

---

傍 聴 者　　２人

（午後６時００分開会）

**◎松田委員長**　お待たせいたしました。ただ今から第６０回小金井市市民参加推進会議を開催いたします。本日はＷｅｂでの参加と、対面での参加の双方を利用しておりますので、事務局、出席者の確認をお願いします。

◎事務局　本日は、村本委員から欠席の連絡、また、中村委員から出席が遅れるとの連絡をいただいております。現時点でＷｅｂ・会議室合わせて１０人の出席をいただいております。よろしくお願いします。

**◎松田委員長**　この会議の定足数は委員の半数となっており、現在１２人中１０人御出席ですので、本会議は成立しております。

本来、１月に開催する予定でしたが、緊急事態宣言の発出を受けて開催を延期させていただきました。前回から時間がだいぶ空いてしまいましたが、引き続きよろしくお願いします。それ

では会議に先立ちまして配布資料の確認など、事務局お願いします。

**◎事務局**　事務局梅原です。資料はＷｅｂ参加の方には郵送しておりますが、次第が１枚、その下に資料が１から６までございます。不足ある方は挙手をお願いします。

**◎事務局**　会議に先立ちまして、Ｗｅｂ会議のルールを共有したいと思います。発言する際は、挙手し、指名されましたら御発言ください。カメラはオンにしておいてください。雑音などを避けるため、音声はミュートにしていただき、発言する時にマイクをオンにするようにお願いします。また、委員以外の方が映り込まないようご注意ください。

続いて、その他注意事項です。

・録音や録画は行わないようお願いします。

・通信が途切れた時は、事前にご案内した事務局の携帯電話へ連絡をお願いします。

・また、あわせて傍聴の方へお伝えします。傍聴券に記載ありますが、撮影や録音は禁止としていますので、ご了承ください。ここまででご不明な点ありますでしょうか？

**◎事務局**　それでは、議論に入っていただく前に、資料１として、前回会議後に「意見・提案シート」をいただいておりますので、お取扱いを御協議いただきたいと思います。

**◎松田委員長**　では、改めまして、始めさせていただければと思います。

まず、先ほど、傍聴の方から意見・提案シートをいただきましたけれども、こちらを見ていただきましてお分かりいただけますように、内容は、引き続き議論をというような御意見かと思いますので、この場で共有させていただきまして、このまま引き続き進めさせていただきたいと思いますけれども、よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。そうしたら、こちらはまた議論の御参考にしていただければと思います。

では、改めて議事に入らせていただきたいと思います。まず、今日は、先ほどもお話ししましたように、理想の市民参加についての、前回の続きでございます。前回からの時間がちょっと空いておりますので、簡単にもう一度、思い起こしていただきますと、前回の会議では、私たちが挙げました理想の市民参加について、１つずつ課題を洗い出し、その課題に対する解決策を考えるということを進めてまいりました。今回の会議では、一通り最後まで検討させていただいて、今後その中から、今期の市への提言を考えていくというふうに進めていきたいと考えております。よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。そうしましたら、事務局のほうで御進行をお願いしたいと思います。

**◎事務局**　それでは、事務局のほうで説明させていただきます。すみません、その前に、事務局の人事異動がございましたので、御紹介だけさせていただきたいと思います。主任の野村でございます。

**◎野村主任**　このたび企画政策課に配属になりました野村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**◎事務局**　それでは、本日につきましては、前回の続きの議論をしていただければと思いますが、議論に先立ちまして、前回の会議で、市民の方に意見をいただく仕組みについて、きちんとお伝えできておりませんでしたので、一定まとめさせていただいております。

資料２、市への意見の出し方のまとめを御覧いただきたいと思います。

市全体の意見の窓口といたしましては、大きくは、上から３つ目までございまして、１つが、要望・意見カード、それから、市長へのファクス、市長へのＥメールでございます。これらは市長への御意見、御要望を直接いただくもので、紙については、市役所にある投書箱に入れていただくものでございます。また、ホームページや市報で広報されています。

前回、私からの御説明の中で、投書箱のようなものは置いていないという説明をしてしまったのですけれども、本庁舎と第二庁舎に１つずつございますので、訂正させていただきます。

続いて、前回、御意見に出していただきましたが、この資料の４段目、年４回、市長と市民の座談会という、直接市民の方から御意見をお伺いするものがございます。

また、その下、年１回、市長への手紙という無作為に抽出した市民の方２，０００人を対象にした、郵送でのアンケート調査を定期的に行っているところです。

その他、計画や主要な施策を進める際には、パブリックコメントや市民アンケートを行うなどして、御意見を聞く機会を設けさせていただいております。その他詳細については、資料を御覧いただきたいと思います。

様々な意見をいただける方法は用意してございますが､前回御意見をいただきましたとおり、なかなか、それを市民の方に伝えられていない、または、意見が出しやすいものではないというようなこともあるかと思っております。

それから、資料３、令和元年度市民相談のまとめでございます。こちらは、１年間の要望・意見カード、市長へのファクス、Ｅメールの状況をまとめたものになります。

次に、資料４、令和元年度市長への手紙、こちらは、先ほどもお話ししましたように、年に１回行っております市民アンケートの、直近の結果を抜粋させていただいたものになります。御参考に配付させていただきましたので、後ほど御参照いただきたいと思います。

それでは、資料５、「理想の市民参加」課題と解決策を御覧いただきたいと思います。

前回、１ページの１番から、この資料の９番まで、御審議をいただいております。その議論の内容につきましては、それぞれ課題、それから解決策というところに記入をさせていただいております。

本日は、１０番から最後の１７番まで、それぞれの課題と解決策を御議論いただきたいと思います。

この資料につきまして、１点、補足で説明をさせていただきたいと思いますが、４ページの１４番を御覧いただきたいと思います。

こちらに、「市民参加したくなるような環境作りを行政が行う事は、以下のシチズンシップの機運を高める上でも効果的」とありまして、こちら「以下の」とありますが、これは、いた

だきました御意見をそのまま掲載しておりまして、この資料でいいますと、２ページの６番を御覧いただきたいと思うんですが、２ページの６番にシチズンシップについての御意見をいただいておりまして、こちらの御意見を指しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、委員長、よろしくお願いいたします。

**◎松田委員長**　それでは、委員の皆様方、よろしくお願いいたします。前回、９番まで御審議をいただいたところですけれども、本日は１０番から進めさせていただいて、１７番まで、しっかりと見ることができればと思っております。

では、まず１０番でございますが、見ていただきまして、お分かりいただけますように、自由に議論ができるということは非常にすばらしいことだということで、ポストコロナ時代に市民参加の話ができるのか､地域コミュニティーができるのかという状況かもしれないけれども、こういうお話が皆さんとできるといいということで、この辺りから、一般的に課題となることや、あるいは現在の状況からの解決策ということで、少し御意見いただけましたらというようなところでございます。いかがでいらっしゃいますでしょうか。

少し、関連づいて思われることとか、そういうことも含めまして、今日はどんどん自由に御発言をいただけたらと思います。では、森田委員、お願いいたします。

**◎森田委員**　私が運営している施設で、地域食堂と、こちらの会議が重なっておりまして、参加できずに申し訳ありませんでした。もし、見当外れのことを言ってしまうかもしれないんですが、市民が参加して何か意見を述べるというときに、例えば市報とかで、こういう委員会が催されますよ、ぜひ参加してくださいという案内が出ますよね。それに対して論文を書いて、作文を書いて提出するなんというときに、私も、この施設に来ている若い人たちにも、これ参加してみたらと声をかけたりするんですけれども、まず、そのタイトルが、一体どういうテーマで意見が求められているのかがぴんとこなくて、作文が書けないという意見がとても多いですね。やっぱり、行政の会議で、漢字がとっても多くて、もう少し、パッとタイトルを見たときに、こういうことのテーマで、みんなで議論ができる場なんだなということをイメージしやすいタイトルを考えてもらえたらなというふうに言っている若い人が多いです。

あとは、参加したときに、うちの職場にはいろんな、障がいを持っている若者も来ているんですけれども、その会議の中に自分が受け入れてもらえなかったらどうしようとか、そういった不安があったりするときに、その会議の場でちゃんとコーディネートする人がいるよということを分かるように伝えてもらえると、そういったハンディを持った人たちも安心して、そういった意見の場に参加できるのではないかなと思いました。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。参加のための環境といいますか、そういう意味合いですごくポイントになるようなことを幾つもお話しくださったなと思って伺っていました。

市民の皆さんが本当に楽しく議論ができる環境ということで、今の御意見も含めまして、他の方いかがでしょうか。こんなことがハードルに逆になっているのかなとか、そんな辺りからも少し見ていただけたらと思いますが。御発言いただきますときは、画面上でも手を挙げてい

ただきますと、お願いしますというような形で、お話しいただけると思いますので、よろしくお願いします。こういうことは本当に重要なことだと思うのですけれども、そういう環境作りということでの課題で、今、具体的に、例えばテーマの見やすさだとか、今、森田委員がお話しくださいましたようなところを、少し、幾つか解決策ということで、整えていくということが必要かなというふうにちょっと感じました。

では、引き続き、１回まずどんどん進めていって、また、戻ってくるということも含めて、やっていければなと思います。

次に、１１番でございます。見ていただきまして、特に概要のところで、市政というものを、皆さんが自分ごととしていかに捉えるかというような、そういうことに少し課題があるのではないかというような御意見でございますけれども、この辺り、見ていただいていかがでいらっしゃいますでしょうか。

では、こちら側から失礼しますけれども、南委員、いかがでいらっしゃいますか。

**◎南委員**　すみません、ちょっとまだ意見がまとまっていなくて。お時間を下さい。

**◎松田委員長**　いえいえ、とんでもございません。すみません、急に振ってしまいまして。

何といいますか、当事者意識というんでしょうか。こういうこと、本当になかなか難しいことだとは思うんですけれども、この辺り何か御意見お持ちの委員の方、いらっしゃいますでしょうか。森田委員、お願いいたします。

**◎森田委員**　今まで参加できなかったのを、何か爆発させるようで申し訳ありません。そうですね、やっぱり、自分ごととして捉える、参加するというところが、本当に子供の頃から、うちの施設は小学生の子供たちとかもやってくるんですけれども、学校での様子とか、中学に上がっての様子とか、どうしても、言っていいのかなと、言ったら笑われてしまうとか、どうせ、何ですか、クラスの中でも、そういう序列みたいなのがあって、やっぱりそういった、ちょっとね、発言をいつもするような人のほうに流されてしまう、何か言ったらというのが、やっぱり蓄積されていくものなんだろうなというのを、いつも見ていて感じるんですよね。委員長は大学の先生でいらっしゃるので、やっぱり、そういう積み重ねとか、若い人たちの、感じていらっしゃるのではないかなと。例えばこういうズームの会議でも、やっぱり、そういったところを意識して、発言しないと駄目だとか、何か大人になったらもっと、なおさらのことそんなふうになってしまうのかなと。

先ほどもお話ししましたけれども、だからこそ会議とか話合いの場に、コーディネーター、委員長とかを中心に話を進める人と、周りをコーディネートしていく人の存在って、とても大きいのではないのかなと思います。何か子供の頃からの、そういった教育の影響ってとても大きいんだろうなという感想でした。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。本当にみんなのことをみんな事とか、ここにございますような言葉で感じ取って、それで当事者意識を持って関わっていくって、なかなかすぐにできるようなことではなくて、ゆっくりと育っていくというか、そういうことをみんなで気をつ

けていくということが大事だなと思いました。

でも、本当に市政を自分ごととして考えるというのは、ここは割と市民参加という意味では重要なポイントかなと思うんですけれども、こういうことをすればもう少し身近になっていくんじゃないかとか、その辺りで何か御意見をいただけるような方いらっしゃいませんでしょうか。金尾委員、お願いします。

**◎金尾副委員長**　１１番の御意見を拝読しながら、自分ごとにしなければいけないのに、森田委員にお任せして大変恐縮だなと思って、挙手させていただきました。何か自分ごとに引き直したり、自分ごとをみんなごとにさせていただいて、御意見をお伺いしたいなと思ったときに、ちょっと言いづらいなとか思うときは、抽象的だと漠然とし過ぎていて、意見を具体的に言いづらいというのがあるなと思いました。

何にお困りなのかとか、どういう御意見があるのかというのを、具体的なクイズというとちょっとあれですけれども、具体的な問題提起、場面設定とか、こういう問題が発生したら、あなたはどういうふうに解決されますかというようなぐらいな説明が、具体的には何なのといったときに、例えば、市の図書館に入りづらいとか、物理的に行きづらかったらこういう解決策とか、いろんなことがあるので、具体的な問題場面を設定していただけると、自分ごとに引き直したり、問題と思われている方の援護できるような意見を試行錯誤しやすいかなと思いました。具体的な場面設定がいいかなと思った次第です。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。大変重要な観点だなと思いました。こういう話合いもそうですものね。やっぱり、具体的な話だとすぐにこう、いろいろ考えやすいんですけど、少し抽象度が高くなっちゃいますと、やはり少しコミットしにくいというのはありますよね。参加しにくいというのは。

その辺、市から見られて、市民参加をされるときに、課題の立て方として、どういうふうにお感じになられたりされていますでしょうか。どちらでも結構ですけれども。はい、天野委員、お願いいたします。

**◎天野委員**　理想の市民参加について、市民参加推進会議でお話しされるのは難しいのかなとか、抽象的というところで心配しているところはあります。他の審議会だったら目的、例えば子供のためにどういう計画を作ったらいいかとかいうことであれば、話もしやすいのかもしれないんですけれども、市民参加という、抽象的かもしれないけれども、どうしたら小金井市の政策にうまくいくのかということでもあるから、話はしている。だけど、これまで森田委員から、ワークショップの仕方だとか、若者がどうやったら話ができるかなんていう意見をもらって、とても和気あいあいじゃないですけれども、話がしやすいような審議会が、ここまでしてきました。なので、話は抽象的かもしれないけれども、小金井市の市政の在り方として、どうやればみんなの意見が出やすいかとか、特に、やはり若者が話ができるかというようなことは、やはりまた聞きたいと思っているので、よろしくお願いします。

**◎松田委員長**　加藤委員、お願いします。

**◎加藤委員**　前回、他の公務と重なってしまって参加できずに申し訳ございませんでした。

市民が市政を自分ごとという部分ですけれども、私、実は総務部なので、やはり自分ごとで、具体的な例で、例えば言うと、防災を私所掌していますので、例えば、一昨年、台風１９号が来たとき、やはり市民の方って、こちらからどういう情報を出すかという、その出し方もやっぱり結構大事だと思っていて、台風が来るといったら、まず、避難所に早く行かなきゃいけないみたいな。実は自宅にいれるようであれば、自宅にいていただくのが実は一番安全ということも当然あるんですけれども、その辺のところというのが、うちのほうでもそういう情報をなるべく発信するような形はしているんですけれども、どうしても、やっぱり市報とかではなくてホームページだけだとか、そういう形にある程度なってしまうと、見れる方も、全市民が見れるわけでもなくて、こういう形だったら実は自宅にいるというのも、やっぱり１つ有効な手段だということを、見ていただいている市民の方々に御理解いただいて、また、そういうことなのかということを、うまく情報発信できるような、先ほど、具体の場面ということで、金尾先生からお話ありましたけれども、その辺を市として情報発信をいかに、自分ごととして受け入れられるような、そういう理解できる中身を共有するというのは、実は結構大事なんだなというのは、この台風のときに実は私、結構いろんな問合せがある中で、実感したところがありまして、市と市民を結ぶための情報の、市としての発信の仕方というのも、正直、自分ごととして捉えていただく上で、重要な要素かなというのを、実は、総務部としての私の立場としては、結構、最近は考えているところでございます。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。情報発信の仕方ですね。岡田委員、お願いいたします。

**◎岡田委員**　リアクションの仕方が、ちょっと違うかもしれないんですけれども、私も、どうぞと言われると手を挙げづらいんですけど、例えば子供たちを招待するとか、大学生を招待するとかというやり方で、こちらから質問を投げかけて伺うというやり方も１つあるのじゃないかなと思って。不特定多数の人を集めて、この議題で、どうでしょうといっても、なかなかやっぱり難しいというか、そうじゃなくて来週、来月の何日に小学生５年生を、例えば２０名集めるよといって、こんなこと質問するよと予告して、そうするとやっぱり子供とか、大人もそうですけど、こういう質問が来るんだと思って、じゃあ、僕、こんなこと言おうかなとか、頭の中で考えてくると思うんですね。それに対して、リーダーでも何でもいいんですけど、こちら側からどんどん質問をぶつけていくとか、市民参加をどうしたらしやすいかというよりは、参加を招待しちゃうというか、参加してくださいみたいな感じで、招待というのか、やってますから来ませんかというと多分、なかなか手は挙がらないと思うんですけど。

**◎天野委員**　呼びかけるとか。

**◎岡田委員**　そうです。というよりも、ここの人たち来てくださいといって、来たとして、こういう質問をします、なので今思っていること何でも言っちゃっていいですとか、そういう形にするといいかなと、そういうやり方もあるんじゃないかなと思いました。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。確かにそうですよね。こう何か、例えば何か遊びをす

るときなんかでも、巻き込んでくれるとそのままいっちゃうんですけれども、じっと待たれて、来たかったら来ていいよとかと言われると、なかなか手を挙げにくいというのは、本当におっしゃるとおりだと思いますね。そういう仕掛け方といいますか、そういうものも確かに課題解決策の１つとしてあるかなと思います。他いかがでしょうか。森田委員、どうぞ。

**◎森田委員**　この自分ごとと市民参加というところで、今、お話を伺いながら２点思ったのは、やっぱり自分ごと、私は小金井市に住んで、仕事も小金井市なので、やっぱりこれってとても大きなことなんですよね。どんどん、仕事もやっているということになると、小金井市に対しても、参加をしていかなければ、自分の仕事にも影響あるというところも、何でしょうね、より具体的にしなければという気持ちがあると思うんです。そういう意味では、このコロナ禍で、ふだん、日中仕事に都心に行っていた人も、この小金井市にいてというところは、とても大きかったのではないかなと、今後それが市政に対してのいろんな意見が集まるとか、そういうきっかけになるのではないのかなということも、ふと感じたりしました。

あとは、先ほど加藤委員もおっしゃっていたんですが、市民に情報伝達で、そういう意見を集めるというときに、例えば小金井市は市報が満遍なく１軒１軒に届くんですよね。これって、他の自治体に比べて、とてもすごいことではないのかなと思うんです。やっぱり年配の方って市報をすごく丁寧に見ていらっしゃる方が多いように思います。なので、もっと市報の作り方も、何か工夫できるのではないのかなと思うんです。そうすると、よりいろんな世代の人たちにも目について、そこに、何か気に留めるような要素を市報の中に見つけてもらえるんじゃないのかなというふうに感じています。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

前回ですと、５番の御意見も、非常に似たところを御指摘くださっているようなところだったと思うんですが、併せて、今のお話の中で幾つか解決策というものが出てきたかなと思って伺っておりました。

それでは、続きまして、裏面になりますけれども、１２番へ行きたいと思います。少し見ていただきますと、まず、サイレント・マジョリティーという言葉がぼーんと目に飛び込んでくる御意見でございますけれども、やはり少数意見、昔から少数意見というものをしっかりと、どう尊重したり取り上げていくかというようなことかと思うんですけれども、この１２番の御意見に関しまして、何かお感じになることございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

例えば、小金井で考えたときに、こういう、なかなか委員として聞きづらい、聞き取りにくいことだとか、そういう、マイノリティーという言葉もありますけれども、具体的には、何かイメージされたりするようなことございますか。そんなことも含めて、少し御意見がもしあれば、こんな人の声が届いてないんじゃないか。では、金尾委員、お願いいたします。

**◎金尾副委員長**　１２番は恐らく、前回の７番と、それからまだ入っておりませんけれども１７番と関連してくるものかなというふうに拝見しております。

１２番の場合はサイレント・マジョリティーという言葉遣いですけれども、７番のときにお話があったとおり、マジョリティーであろうと、マイノリティーであろうと、サイレント層の意見の吸い上げというのが問題意識としてあるのかなと思っております。

先ほどのお話、いろいろな御意見を拝聴しながら、具体化すると個人的にも意見が言いやすいといったときに、具体化の方法として、若者を、対象と、内容と、伝達方法、それらをいろいろ分けていくと、より具体的なのかなという気がいたしまして、森田委員のお話からすると若者へとか、あと先ほどのお話からすると、台風の防災情報という内容だったらこういう伝達方法でと、それの相関関係で具体化ってより深まっていくのかなと思っておりまして、その対象としてのサイレント層といったときに、マジョリティーでもマイノリティーでもサイレントしている人々なので、意見が言いづらくて、招待化というお話が先ほど出てまいりましたけれども、それをどこのターゲットに絞っていくかって、結構踏み込まないといけない、特にマイノリティーの層と一般的に言われている方々を、どんなふうに対象としてターゲットとして絞っていくのかというのは、精査が必要かなと思っております。その具体化の方法の中の対象の絞り方で、それをどこまで細かくやっていくのかというのは、あまり、誇張化されて、今まで伝統的にマイノリティーと言われていたのが、本当にその分類でいいのかというのは、実際の市政の動きとか、いろいろ調査してみないといけないことなのかなと思った次第です。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。本当に、どういう層に、どういう順番でといいますか、必要性を持って、どういう形でというような、取上げ方といいますか、取組方というのは、とても考えないといけないことだなと、今お話を伺っていて、改めて思いました。

確かに前回の７番とか、幾つか実は議論が既に重なってきているような内容でもありますので、もし含めましても、何か御意見とかございましたら、併せてお願いできたらと思いますが、いかがでしょうか。森田委員、お願いします。

**◎森田委員**　サイレント・マジョリティー、この言葉を聞くときに私も、例えばこういった小金井市の委員会に参加するときなどは、福祉職なので、乳幼児の子供たちや認知症の方々と日々接していますので、常に、そういった人たちの代弁者でもなければならない、福祉職として、というふうに思いながら、今もこの意見を読んでます。例えば、新生児の、ちっちゃな乳幼児の子供たちにとっては、今回のコロナ禍でも、保育園は閉鎖をしないでやるという方向が、小学校は休校になりましたよね。でも、それで本当に子供たちは大丈夫なのかとか、あと、認知症という症状をお持ちの方々も、できるだけ福祉職はというふうに、やりましょう、医療職と同じようにというふうなものだったんだけれども、果たして御本人たちにとっては、それがいいものなのか、もっと違う思いとかを持っているんじゃないかとか、私自身、そういった思いを持って意見を発言しなければいけないなと思っています。自分の感想でした。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。中村委員、お願いいたします。

**◎中村委員**　今までの議論の中で、サイレント層ということで議論に上ってましたけれども、なぜサイレントになるかというところで、分類してみるといろいろあると思うんですね。具体

的には、もう諦めて黙っている、あるいは無関心で黙っている。でも、いろいろ意見はあるけれども、恥ずかしいとか、いろいろそういうふうに分けられると思います。そういった人たちに、福祉用語で言う、森田委員はよく御存じだと思うんですけど、アウトリーチという手法がやっぱり大事ではないか。よく福祉用語で出てきますよね。行政のほうが、やっぱりアウトリーチという手法で、サイレント層に手を差し伸べるみたいな、黙っている人に、放っておくんでなしに、こちらから働きかけるというか、そういう手法というのは僕は大事じゃないかと思うんです。そういう意味で、サイレント層を救うという意味で、福祉用語で言うアウトリーチ、手を差し伸べるというか、そういったアプローチが、やっぱり市民参加においては必要じゃないかと僕は思います。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。最近、福祉、教育でもそうですけれども、アウトリーチの動きというのはよく取り上げられる場合が多いですけれども、なかなか届かないようなことというのは本当に多くなっているかなと思います。

他いかがでしょうか。よろしいですか。

では、次、１３番に動いていきたいと思います。こちらは主に広報といいますか、情報をしっかりと周知していくということに関する御意見をいただいておりますが、これに関しまして、何かお感じになることがありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ちょっとこちら側から強引に当ててしますが、鴨下委員、これどうでしょう、市の情報というのはしっかりと今届いていますでしょうか。

**◎鴨下委員**　市の情報、届いていると思います。

**◎松田委員長**　なるほど。

**◎鴨下委員**　今、思っていたんですけれども、市に意見するときに、大きなことも小さなことも何でも言えて、簡単に言えて、届いて、それがかなうか、かなわないかで、かなったほうが、市に言ったかいがある。言った、それで満足じゃないように思うわけです。

ちょっと話ずれるんですけど。会議が始まったときに、市に言いたいことって、自分、何かあるかなって考えていたんですよ。すごい小さい、どうでもいいことが頭から離れなくなっちゃって、これを伝えたらどうなるのかなって、きっと、こうやって返ってきて終了だろうなと思って。それじゃあ意味ないなと、いろいろ考えてます。

**◎松田委員長**　なるほど。ちょっと言葉は悪いかもしれませんけど、何かガス抜きをしただけで、何も変わらないみたいな、そういう感覚ですよね。

**◎鴨下委員**　そうなんです。根本的には変わってほしいことだけれども、絶対無理なんだろうなって思って。自分の中で、言わなくてもいい理由を作っちゃう。きっと、これこれこうだから、こういう状態で、どうしようもないんだろうなって。じゃあ、いっかって。

**◎松田委員長**　なるほど。ちょっと今の問題も、なかなか大きな問題だなと思います。市民参加ということでいうと、本当に本質的な問題じゃないかと思えるんですが、いかがでしょうか、御意見とか、もしございましたら。

１３番の話とちょっとひもづけるとしますと、情報が入る、そういうことは確かに大事だし、そこは気をつけるんだけれども、それで何かこう言いたくなって言う、そういうことは実は意外と整えられていて、むしろ、そのときに、言ってどうなるんだ感というのが背景にあって、そちらのほうはどう考えればいいんだというか、そこがむしろ問題なんじゃないかというような御指摘かと思うんですけれども。岡田委員、お願いします。

**◎岡田委員**　鴨下委員のお話を聞いて思ったんですけど、１３番のことに関して思うのは、広報の工夫により情報が市民に届くと良いという内容なんですけど、市民参加を促す手段が広報というよりもといったらあれなんですけど、このような意見が来て、こんな解決を市はしましたという情報を流してあげるほうが、いろんな方から、次に、自分もこういうことを提言してみようかなとかというきっかけになるんじゃないかなと思いまして、どんどん市に意見を、お願いしますということを促す、告知というよりも、それも含めてなんですけど、今まで、今年はこういう意見があって、我々はこう解決して、その意見によって、例えば邪魔だった鉄柱を１個取り外しましたみたいな、道路にあるようなとか。私、大阪にいたんですけど、やっぱり子供たちが、全然関係ないんですけど、子供たちが歩くところに、ちょうど何か要らない棒みたいなのがあって、何とかこれを外してくれないかって市に促したら、頑張ってやってくれたことがあって、やっぱりそういう、一生懸命市民がお願いしたことが、実はかなったんですよみたいなことを、広報で、どういう手段か分からないんですけど、皆さんに発信、上手にできたらいいんじゃないかなと思いました。

**◎松田委員長**　なるほど。中村委員、お願いいたします。

**◎中村委員**　今おっしゃった岡田委員の御意見と同じなんですけれども、やっぱり、鴨下委員がおっしゃったように、何か、こんなことを言ったら、こんなことを言っていいのかなというふうに、まず、こっちでバリアというか、否定してしまうというのはよろしくないと思うんですね。それに当たって、やっぱり行政のほうで、行政について市民が意見をしたときに、やっぱり市の対応がどうであるか、行政の対応がどうであるかという意味で、やっぱり、こういう市民の声に対して、こう行政としては、フィードバックですね、フィードバックをいかにするか、したかというのを、やっぱり周知させるということが大事じゃないかなと。たとえできなくても、こういうふうに受け止めて、中で議論したけれども、ちょっと駄目だったとか、そういうことでもいいと思うんですね。ですから、やっぱりそういった対応をガラス張りにして、こういうフィードバックをしましたということを広報で知らしめていくということによって、少しでも市民のほうは、鴨下委員がおっしゃるような、バリアというか、そういうのを取っ払って、意見が言いやすいような雰囲気になるんじゃないかなと、私は個人的に思います。

**◎松田委員長**　いかがでしょうか。よろしいですか。

では、今のお話も、もう随分、本当に課題が明確化していますし、それに対する対応というのも、幾つか出ておりますので、少しおまとめいただけるんじゃないかなと思います。

次、１４番でございます。これも関連するような部分が多いんですけれども、シチズンシッ

プの機運を高めるということ、言葉として書いてくださっているんですけれども、環境作りということの中で、何というんでしょうか、ある種、こういうのはシティープロモーションとか、そういうことにもつながるのかもしれませんけれども、参加したくなる環境があるといいなということとしてまとめてくださっていますが、いかがでしょうか。何かお感じになることがありましたら、お願いしたいと思います。

本当はどんどん、すみません、むちゃ振りなんですとかって言いながら、お声を聞かせていただきたいんですけれども。特に市役所から参加してくださっている皆さん方が、僕はまだ名前とお顔が実は一致していなくって、画面上で見ますと小金井市３とか、小金井市５になっているんですよね。申し訳ございません。ですので、ぜひどこかで一言、二言、お感じになられていること、お声を聞かせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

**◎竹田委員**　解決策ではなくて、意見になっちゃうんですが、そもそも市民は市政に参加したいと思っているのかなというのが、自分の周りではありまして、一概には言えませんが、周りの若い世代の参加意欲、意識が弱いというか、社会との接触をあまり好まない傾向が周りにはあります。

それで、広報などで情報が市民に届いたとして、参加する人は時間的余裕がある方とか、必要に迫られた方とかがしている印象があります。それで、参加する人は何にでも参加していますが、参加しない人は何にも参加していないという印象があります。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。根本的な御指摘をぽんといただいて、本当にぐさっとくるところでございますが、いかがでしょうか。非常にリアルな話だと思います。おっしゃるとおりだと思いますね。橋田委員、お願いいたします。

**◎橋田委員**　さっきからの流れになるんですけど、多数派とか少数派というのが、大体の場合、僕は自己評価かなと思って、サイレントということは、あまり人には分からないような状態ということなので、勝手に、例えば具体例を挙げるなら、図書館をよく利用する人にとって、図書館がすごくきれいな施設になることは喜ばしいことだと思うんですけど、全く利用しない人にとっては、あまり意味がないか関係ないこと、だけど、それって利用する人も、多分、他の人にはこれ関係ないんじゃないかと思って、意見を言いづらかったりするかと思うんです。そうやって、他の人には、これ関係ないんじゃないかと思うことで意見が言いづらくなるような状況が多々あると思いまして、市民が参加したくなるような環境作りという意味では、例えばそういう、できるだけ小さなことのほうが効果があると思うんですけど、図書館の床がきれいになりましたとか、そういった小さなことを取り上げて、解決しましたよという一連の流れを、できるだけ多くの人に知ってもらえたら、そういう小さな声も吸い上げるような機関があるんだということで、意見が言いやすくなるのではないかと思います。

**◎松田委員長**　なるほど。参加をするということが、そもそもどういうことなんだというのが、共通体験としてはなかなか持ちにくいですし、そういう意味で、そういうものがやっぱりいろんな形で、小さなところ、身近なところからやっぱり持たれる必要があるということですし、

そもそもそれがない中で、率直に、何で参加しないといけないんだという、参加するモチベーションがそもそも持てない。その辺り、本当に関連づいた問題だなと思って今伺わせていただいていました。

いかがでしょうか、意見がもしあればお願いします。森田委員からお願いします。

**◎森田委員**　地域食堂をやっているつながりで、いわゆる困難家庭への支援をしているんですけれども、貧困家庭とかですね。やっぱり、そういった子供たちや親御さんたちって、もう意見言いづらいんですよね。いろんなことを思いがあるんだけれども。そういう中で、すごく感じるのは、大丈夫だよ、私がそばにちゃんといるし、私も一緒に声を出していくから大丈夫だよということを繰り返し、繰り返し伝えていくことだなと、いつも感じています。で、それによっての、先ほど鴨下委員、フィードバックっておっしゃいましたけど、直接、なかなかそういった家庭には届きづらいことでも、この間、これこれこういうことを言っていたことを伝えたら、こんなことが返ってきたよということを、もう本当に積み重ねて、積み重ねて、何度も何度も繰り返してやっていくことだなと、日々感じています。

**◎松田委員長**　なるほど、ありがとうございます。中村委員、お願いします。

**◎中村委員**　先ほど橋田委員がおっしゃった件と関連するんですけれども、部長さんお二人にお尋ねしたいんですが、小金井市では目安箱というのはありますか。

市長への手紙とか何か市長とのあれという形はあると思うんですけど、例えば、徳川時代に、あれは徳川吉宗の時代だったんですね。目安箱をいろんなところに置いて、市民の意見を吸い上げて、恐らく行政は、幕府は対応していたと思うんですね。そういうのも、市長への手紙となると、やっぱりちょっと身構えるところがあるような気がするんです。目安箱だったら、ないですよね、今。教えてください。

**◎事務局**　目安箱といいますか、本当に紙を入れられる箱自体も、この本庁舎と第二庁舎には置かせていただいています。それで、それと別に、ファクスとか、それからメールとかという形でも、受付はさせていただいております。

**◎中村委員**　それで、その件に対する、目安箱の意見に対するフィードバックというのはされていますか。

**◎事務局**　いただいた中身にもよると思いますが、住所、氏名が書かれていて、回答が必要な内容をいただいている場合には、こちらから答えをお返しさせていただいています。

**◎中村委員**　ということは、マンツーマンというか、意見を言った人に対してのあれですね。

**◎事務局**　そうですね。一対一といいますか、その内容は他の方からは見えずに、その方に対してお返しするということになります。

**◎中村委員**　その場合に、個人情報の問題があるので、なかなか微妙な部分はあるんですけれども、こういった意見がありました。誰それから、こういった意見があったというのでなしに、こういった意見があって、行政がこういうふうに対応したというのを、例えば市報とかでオープンにしていったらいいんじゃないかなと思うんです。目安箱に意見を入れるって、それも市

民参加の１つの方法じゃないかなと思います。それに対して、やっぱり丁寧に行政のほうが答えていく、フィードバックしていく。意見を言った人だけでなしに、オープンな形で、ガラス張りにして答えていくというのが大事じゃないかなと思います。その市民参加の１つの形態が目安箱じゃないかなという感じもしております。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。岡田委員、お願いします。

**◎岡田委員**　中村委員の補足というか、私も思ったことなんですけど、フィードバックした際に、一対一でフィードバックされると思うんですけど、最後に解決というか、お話が終わった時点で、この話を、同じような意見をお持ちの方がいるかもしれないので、例えば、発信してもいいですかということを一言添えるとか、嫌であれば嫌と、やっぱり言うと思いますし、一言そういう感じで、個人情報、本人が嫌ならなしということになりますし、そういうお伺いも立ててみてもいいんじゃないかなと思いました。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。鴨下委員、お願いします。

**◎鴨下委員**　目安箱についてなんですけど、ＱＲコードとかが駅の広告とかに貼ってあって、それで、そのサイト、掲示板か、何だろうな。誰でも書き込めるところがあって、そこにすぐ飛べる。で、書き込める。書き込めるときは、それこそ、岡田委員がおっしゃったように、匿名希望か、別に出してもいいよというか、自分で選んで、それが最終的には分類化されていて、１回この人がこういうことを言いました。市は、こういう回答をしていますというのが、分かるように積み重なっていったら、より、過程も見えるし、合理的なのではないかと思いました。

**◎松田委員長**　なるほど。ありがとうございます。

　そういう意味では次の１５番にインスタグラムということがあって、要するにツールですよね。目安箱ということの機能を、どういう具体的なツールで、さらに身近なものに広げていくかというような観点でも、よいのかなと思っていますけれども。そういう意味であれですかね、今のＱＲコードもそうですけど、ＩＣＴの利活用ということが、もうちょっと市民にとって身近に市とつなぐ、市政とつなぐということで活用されるということも、論点としてはあるんですかね。鴨下委員、お願いします。

**◎鴨下委員**　年代によると思います。

**◎松田委員長**　なるほど。

**◎鴨下委員**　より参加する幅は増えると思います。ただ、それによって同じく取り残されていく年代もいると。だから、どっちか一方じゃなくて、同時にやってあるといいんじゃないかなと。

**◎松田委員長**　そうですね。最近は、僕よりも年上の方のほうが実はＬＩＮＥだとか、いろんなものの使い方に詳しかったりしますが、おっしゃるとおり、逆にサイレント・マジョリティーになってしまいますよね、そういうものがバーッと先に出てしまいますと。両方でというのは、おっしゃるとおりだなと思いました。他はいかがでしょうか。岡田委員、お願いします。

**◎岡田委員**　私が言った意見か分からないんですけど、私はやっぱり、こういったインスタグ

ラムであるとか、ツイッターであるとかというのを、もっと使ったらいいんじゃないかなと思っているほうの者なんですけど、もちろん、鴨下委員がおっしゃったとおり、並行して、そういうものを全く使わない人もいらっしゃると思いますので、並行してやっていかなきゃいけないことだと思うんですけど、今、例えば、参加を促すという部分では、若干参加してもいいかなと思っている人すら参加してない気がするんですよね、市に。

なので、まずはこういうこともやった上での話なんじゃないかなというところがちょっとあって、フルに活用してみても、例えば、なびかないというか、心に訴えるものがないのであれば、またちょっと違う考えも湧くんですけど、多分、フルに活用しているとは私思わないんですね、まだ、インスタグラムであるとかツイッターを、市で、若者を取り入れるとか、いろんな方法があると思うんですけど。なので、まずは、こういうのをやってみる、毎日発信する、毎日、例えば、関心があるようなこと。例えば、美味しいお店でもいいんですけど、小金井市の。何でもいいので、桜がきれいなのも、桜はここすごいいいスポットですよと教えてあげるのもいいと思いますし、何でも発信してみて、どんどん取り入れていく。そこにまた、意見が言えるような場所を作っていくというか。まずはちょっとフルに、たけた方をリーダーにしてやってみるというのがいいんじゃないかなと思います。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。森田委員、お願いいたします。

**◎森田委員**　そういう意味では、例えばフェイスブックで、小金井にも、小金井掲示板という私も参加しているんですけれども、結構、みんな活発にやり取りしているんですよね。そこに、市が中心になって意見を集めるというよりも、そういう活発な中に市が入っていって、この御意見頂戴しますという感じで、持っていってもいいんじゃないのかなと感じました。

**◎松田委員長**　なるほど。市もアンテナの立てどころをもっといろいろということですね。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。次の１６番も誰もが参加しやすい、という同じ観点かと思います。また、その次の１７番は先ほど１２番で一度見ていただいておりますが、ちょっと足りてないところとか、お話いただけるようなことがありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

そうしましたら、一応いろいろ皆様方から御議論いただきまして、重なるところも意見としてはありますので、少しここまでのお話を取りまとめていただいて、１７番までの検討は一旦これで止めておきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

そうしましたら、前回いただきました御意見も踏まえまして、少し、市民参加をするという今回のテーマに関しまして、幾つか視点とか観点が出てきたかなと感じているところです。ただ、今回、この会議で提言をまとめていくということになりますので、やはり市が具体的に実行できるというような範囲で考えていくということも重要なことかと思いますので、その辺り、また、皆様方と御議論しながら進めていければなと思います。

ここまでのお話、少し事務局の皆さん方とも整理をして、また次回、何がしかの取りまとめの視点のようなものを出せていければと思うんですけれども、そもそも市民参加ということを、どれだけ市民の方々が手元の問題として感じることができるのかというような辺りとか、あるいは、そういう意味では、そこに基づいて市民の方々が意見を出しやすいというような、あるいは出したことが一定のはね返り、返ってくるという状態があって、そういう意味で参加というものが具体的になっていくというような、その方法の在り方だとか、それとか、そもそも、何て言いますか、みんなというか、小金井市民としてみんなで生きているとか、そういう広い意味でのつながりというんでしょうか。そういうものに関する意識のようなものを、どういうふうに考えていくのか等々、幾つか御意見は出てきているところかと思いますので、この辺り、少し事務局と整理させていただきながら、さらに次回以降、的を絞りつつ、検討していければと思います。ありがとうございます。

今までのところで、何かコメント等ございます委員はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

では、今日、まだまだコロナ禍でもありますので、少し時間を、できるだけ短縮していきたいと思っておりますので、次の議題ということで、次回の推進会議の開催日について、事務局から御提案をいただきたいと思います。お願いいたします。

**◎事務局**　それでは、今後の予定につきましてでございます。

資料６、第８期市民参加推進会議の行程表を配付させていただいております。次回につきましては、できれば、５月の中旬か下旬頃にできれば、大変ありがたいというふうに検討しております。また、日程につきましては、改めて調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。それでは、その他は何かございますでしょうか。中村委員、よろしいですか。

**◎中村委員**　じゃあちょっと、せっかくですから、言いたいことだけ言って、帰らせていただきます。

市民参加と関連するのが、実は選挙の投票率じゃないかなと私思ってまして、実は私、小金井市の前原小学校で継続的に立会人をやっている中で、これは個人的な感想なんですけれども、やっぱり若い人があんまり投票に来ないです、相対的に。つまり、市民参加で、これまで市民参加推進会議で、議題に今まで上ってきてたのが、若者層の市民参加についてということで、結局、若者の市民参加がうまくいけば、投票率も上がるんじゃないかなと私は思います。

今回も市議選で立会人をしましたけれども、やっぱり投票率が５０％を切るようであれば、それじゃやっぱりちょっと問題があると思うんです。それは、正確にそれが民意が反映されているかどうかというと、５０％未満であれば、民意は反映されていないんじゃないかなと。ちょっと暴論かもしれません。失礼なことを言っていますけれども。

そんなことにならない、今後、やっぱりその辺も念頭に置いた中で、市民参加、特に若者に

対する市民参加を促すような施策というのが重要になってくると同時に、それがやっぱり比例するんじゃないかなと思うんですけれども、投票率なんかにも影響を及ぼすところがあるんじゃないかなと思っています。それはやっぱり、市政の１つの課題じゃないかなと思うんです。

それから、あともう一つ申しますと、投票率も国政レベル、都レベル、それから市レベルで投票率を比較すると、国政がやっぱり高いですね。国政、都政、市政ということで、一番地元の市議会議員選挙、市長選、これらが一番低いんです。ということは、やっぱりそれは問題があることであって、その辺はやっぱり考えていかないといけないということは、取りも直さず、やっぱり市民参加というのは、もっと重要なファクターじゃないかなと私は思っています。ちょっと、自説をかなりぶちまけましたけれども、失礼があったらお許しください。

**◎松田委員長**　ありがとうございます。そういう意味では若者とか、政治への参加というような観点というのも、確かにおっしゃるとおりだと思いますので、御意見いただきながら、次回以降もまた進めていければと思います。

他の方いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日はこれで終了させていただければと思います。

本当に今日はお忙しいところありがとうございました。それでは、終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

**◎事務局**　皆さん、ありがとうございました。松田委員長、大変ありがとうございました。

（午後７時２８分閉会）